

半世紀以上も前に読んだ本でタイトルも著者も忘れてしまいましたが、「女性は何故、口紅をつけるか」という内容はずっと覚えていて、それによると、太古の昔、人間がまだ狩猟採集で生計を立てていたころ、狩りをして得た肉を食べることは最大の幸福であり、自分の地位が高いことの証明だったそうです。したがって、肉を食べていない時でも、その地位を誇示するために、男女とも唇の周りに紅色を塗る風習が始まったというのです。

同様にネックレスやイヤリングなどの装飾品も、自分には余裕があることを他者に示し、自分の社会的地位が高いことを誇示する意味から始まったといえます。現代でも、バッグや装飾品にお金をかけるのは、太古の時代の「脳」が我々の中に連綿として生きているからではないかと思っています。

ただ、現代は太古の昔と比べて人々の社会的地位というか、立ち位置を示すものが多様化しています。昔なら単純にお金があるか無いかや、財産の多寡が重要だったかもしれませんが、インターネットが社会的に認知されてからは、SNSでの評判が「お金」の代わりのような役割をしています。

実際に、私の友人は、自分のツイッターのフォロワー数を増やすのに、フォロワーの人数が増えた分だけ、第三者に寄付するという方法でフォロワー数を増やしました。何の得があるの



絵・江口修平

お金って、信用だと知った時

森田正光

かと思ってしまうですが、実は一般的に、フォロワー数が多いほど社会的な信用度は増します。多くの人に「いいね！」ボタンを押される記事ほど信用度が高いと言い換えることもできます。

そこで「お金」です。若いころは、あまりお金のことを考えたことはありませんでした。そんな私が四一歳の時に、(財)日本気象協会を退職し、ウェザーマップという会社を立ち上げます。すると、これまで考えたこともない経理や税のこと、経営とは何かについても考えざるを得ない立場になりました。

そこで実践で学んだのは、「お金」って「信用」そのものだということでした。サラリーマン時代は、仕事をすればその対価は翌月に必ず支払われました。それは当たり前のことだと思っていました。会社側から請求をし忘れたり、新規の仕事の場合、約束通りの対価が得られないこともあり。こうした経験を通して、仕事を上で一番大切なのは「信用」で、お金はその「信用」にくっついていてるものだ認識しました。

個人にとっても、社会にとっても「お金」はとても大切なものですが、それはお金がいろいろなモノと交換できるからというだけではありません。お金が正常に回っていることは、人々が互いに相手を信用し合う平和な世の中である証明だと知りました。

もりた・まさみつ●気象予報士、お天気キャスター。1950年愛知県生まれ。財団法人日本気象協会を経て、1992年初のフリーお天気キャスターとなる。同年、民間の気象会社有限会社ウェザーマップ(現・株式会社ウェザーマップ)を設立。親しみやすいキャラクターと個性的な気象解説で人気を集め、テレビやラジオ出演のほか全国で講演活動も行っている。環境問題や異常気象についてのわかりやすい説明にも定評がある。

